Tokyo GENGETSU

東京弦月会会報 No.25 2018年７月

第36回
東京弦月会同窓会･総会

平成30年8月25日(土)
16：00～19：00
帝国ホテル 富士の間

青島と鬼の洗濯板
表紙写真提供：http://miyazaki.daa.jp/

母校の130年に寄り添って
～明治は近くありにけり…！

■会長　藤田 洋一（12回生）

宮崎大宮高校は本年、創立130周年を迎えました。

母校130年の歴史は、明治21年(1888年)に設置認可された尋常中学校に源を発します。

ふるさと宮崎県が誕生したばかりの頃です。宮崎県の誕生が難産だったことは、皆さんご存知ですか。明治4年11月、明治新政府による廃藩置県によって大淀川を境に南を都城県、北を美々津県とされます。そして明治6年にはその両県が廃止統合され宮崎県が誕生します。ところが明治9年8月、太政官布告による行政整理で鹿児島県に併合され消滅してしまいます。県民にとって、まさに目がテンの出来事です。さあどうしたものか…？

思案投げ首の県民に更なる災難が！

翌、明治10年、県民最大の悲劇と言われた「西南戦争」が勃発。薩軍と官軍の戦火は郷土全域に拡がり、県民のなかには身内同士が敵味方に分かれて戦わざるを得ないという悲惨な状況も起きたといいます。

この戦役で戦死者は両軍合わせて1万3千人余りに及びました。多くの県民の犠牲がありました。郷土が被った損害は甚大で、戦いが収束した後、県民の不満は否が応にも高まります。そうした不満が明治13年から16年にかけた「分県運動」に繋がっていきました。

県内各地で宮崎県再配置推進の大会が開かれ請願書を県令に、建白書を元老院に提出するなど東奔西走の活動が実を結び、明治16年5月9日、政府の布告により鹿児島県議会にて宮崎県再配置が決議されたのです。江戸から明治へ生まれ変わる時代の激流に翻弄された郷土の人々の哀歓を遙かに想えば一入の感慨を禁じ得ません。

再配置からわずか5年後に母校の前身「県立宮崎中学校」が誕生しました。設置認可に尽力された人たちや学校の教師、職員の多くは西南戦争を体験されていただろうと思うと、明治の日向人の揺るがぬ精神と気骨を覚えます。

明治39年（1906年）のことです。ポーツマス平和条約締結の大役を果たした外交官・小村寿太郎が帰国後に宮崎中学校で講演を行ないました。生徒たちは日露戦争の話や大国ロシアとの会談の様子など雄弁な語りを期待して待っています。壇上に登った寿太郎は「諸君は正直であれ。正直ということは何よりも大切である」。諭すようにそれだけを話すと演壇を降ります。「伝説の1分訓話」として知られたエピソードだそうです。

小村寿太郎の人生を貫いた信念は「正直と誠」だったと言います。

この短いスピーチは生徒たちに強い印象を残しました。

「正直であれ！」改まって言われると、なにやらズキンと来るものがありますよね。恥ずかしながら私なんざぁ、本音と建前を使い分けて、あっち行きこっち行きして世の中渡って参りましたので…ハイ！

母校の歴史は私たちの歴史でもあります。歴史には、その時代の世相や事象、人々が映し出されています。母校の130年を想うと、先人から受け継いできたバトンを、今、未来の母校を支え新しい歴史を紡いでいく若者たちに繋げていかなければなりません。

明治は決して遠くなってはいません。今も私たちのすぐ傍で息づいています。

先人が立ち上げた志を伝え、育てていく責任が私たちにはあります。

「ほんとうに大切なことは時の流れがおしえてくれる」

130周年を機にその想いを新たに致しましょう。

宮崎大宮高校
校長　飯干　賢

宮崎大宮高校
創立130年に際して

東京弦月会の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。また日頃より母校へのご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げ、心から御礼申し上げます。

このたびの定期異動により、2度目の本校勤務を命ぜられ、県教育委員会教育次長より着任いたしました飯干賢です。本校には平成7年度から平成17年度まで11年間勤務しておりましたが、大宮を離れて12年経っており、心機一転、職員と一緒に頑張って参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて本校は、総生徒数1161名の大宮生で4月からスタートし、本年度節目となる「創立130年」目を迎えます。11月3日(土)には創立130年記念式典を予定しており、ご参加いただければ幸甚に存じます。

旧制中学の60年、新制高校の60年をそれぞれの節目とし、県内どこからでも入学可能となった通学区域撤廃が実施された平成20年からを次の「大宮第三の時代」として10年が経過いたしました。現在、生徒の実態や環境の変化を踏まえながら、学びの質を高めるなどレベルの高い指導を目指し、職員一同研鑽に励んでおります。もちろんこれからも、これまで脈々と受け継がれてきた「リベラルな校風」や「自主自律」「質実剛健」等の大宮精神の良き伝統は引き継ぎながらも、進化し続ける伝統校として「大宮ブランド」の確立に向け教職員一丸となって、魅力ある学校づくりに励んで参ります。

今後とも、東京弦月会の皆様のなお一層のご協力、ご支援をお願いし、ご挨拶といたします。

川上　浩（前校長）

ありがとうございました

東京弦月会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととおよろこび申し上げます。昨年度末をもって定年退職となりました。在職中の皆様方のご厚情にあらためて深く感謝申し上げます。

生徒、同僚そして保護者をはじめとする学校関係者に恵まれた、まさに幸運な教員生活でしたが、とりわけ二度にわたる宮崎大宮高校の勤務では教員冥利に尽きるありがたい経験をさせていただきました。伝統校の校長として「気を遣う」べき同窓会の皆様との交流におきましても、常にあたたかいご対応についつい甘えることが多かったのではないかと少々反省しております。ご寛恕いただければ幸いでございます。

さて、本年度大宮高校は130周年を迎えます。記念誌の刊行や記念講演など、同窓会の多大なるご支援のもと記念事業がとりおこなわれますが、その準備を通じて強く感じいったのは、会員層の厚さにみられる伝統の重み、そして在校生や職員への配慮を忘れない弦月同窓会の「懐の深さ」でありました。

在職中、大宮に学ぶ者が誇るべきは、長い歴史や伝統もさることながら、在校生・卒業生を問わず皆が抱く愛校心の強さであり、その母校への愛着の源にあるのは互いを尊重しあい、のびのびと過ごす学校生活ではないかと生徒・職員に伝えてまいりました。「自主自律」の校風や大宮生の「根拠のない自信」を育むのもこのような「学校風土」であり、その土壌となるのが弦月同窓会なのではないかと考えております。

今後とも、会員の皆様の母校へのご支援をお願い申し上げるとともに同窓会のさらなるご発展をご祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

世代を越えて語り合える東京弦月会

■幹事長　宮原 一郎（30回生）

東京弦月会の皆様、こんにちは。私が幹事長をお引き受けしてから早2年が経ちました。前任だった藤田現会長が、そのお人柄から名幹事長でしたので、果たして私に務まるだろうか、と不安もありましたが、多くの方々に支えていただいたお陰で今に至り、心から感謝申し上げます。

私は仕事の都合で、15年ほど首都圏を離れていましたが、偶然にも総会の担当学年だった6年前の初夏に戻り、同級生との再会を歓ぶことが出来ました。同級生はそれまで半年以上も総会準備に追われ、諸々葛藤もあったようですが、打ち上げでは大いに盛り上がり、絆の深さや結束力の強さを改めて感じました。これを契機に、東京弦月会の行事に顔を出すようになり、今も世代を越えた同郷の皆様との対話や交流を楽しませてもらっています。先輩達が東京弦月会を立ち上げ、大切にしながら発展させてこられたお陰と感謝しています。特に帝国ホテルで開催される同窓会・総会は年々盛り上がり、素晴らしい！の一言に尽きます。会報もホームページもリニューアルされ、進化しています。知恵と工夫で費用を掛けず、準備に奔走している方々の頑張りとそれを盛り立ててくださる会員の皆様には、いつも頭が下がる思いです。

当会の今があるのは、卒業生一人ひとりにDNAとして根付いている母校の校是「自主自律」精神と、「何とかなるさ」と楽観的で明るい県民性との、ベストミックスの為せる業なのでしょう。「保護や指図を受けずに自らの判断で行動し、勝手気ままや我がままを抑え、結果に対して自ら責任を取ること（母校HPより）」で、世代を越えてお互いを信頼し合える当校の伝統をこれからも大切にしていきましょう！

さて、そのような中にあっても、昨年の総会では運営の根幹に関わるいくつかの会則変更を提案し、承認いただきました。どんな物事も、現状に満足しそこに留まっていては、進化もなく永続性も失われていきます。

『脱皮できない蛇は滅びる』（ニーチェ）というように、気づいた時に遅きに失することがないよう、後世のために、同窓会の将来を見据えて布石を打つことも、今だからこそ出来る大切なことのひとつです。「そもそも同窓会は何のためにあるのか？」一言で答えることが難しい本質にも向き合い、従来からの延長線に捉われず原点に立った運営を目指せば、今以上に楽しめる同窓会になっていくと信じています。失敗を恐れず自らの責任でチャレンジし、一人ひとりが明るく活き活きと集い、語り合える東京弦月会を皆様と一緒に創り上げていきましょう！

バトン～時を受け取る～

母校のアイデンティティーを感じる「自由に描く音」の世界をお届けします

平成30年8月25日(土)
帝国ホテル　富士の間

時は、容赦なく過ぎていく。ある一定の年齢を過ぎると時間の流れを異常に速く感じてしまいます。私たちの母校は、今年で130周年。ふっと…自分はその歳月の中の何年を生きているのかと考えると……130年の歴史の重さを感じてしまいます。

大宮の歴史は、戦後に大きく変わりました。過去の記事を読むと、「屈辱でいっぱいになって机を校舎に運んだ……」という言葉が記されています。戦争を知らない世代は、その時代の「屈辱」をその気持ちのままに受け止める事は出来ませんが、そこから大宮がスタートし、そこに「矜持」を持って学んできた先輩方が大宮のその後の道標になったことは確かだと思います。そして、そんな歴史の中に、時は違えても同じ様にいた私たち――共有できる歴史を大切にしたいですね。

今年は、先輩方のそんな「道標」を受け取る意味で、「バトン～時を受け取る～」と、ちょっと硬派なテーマを掲げました。

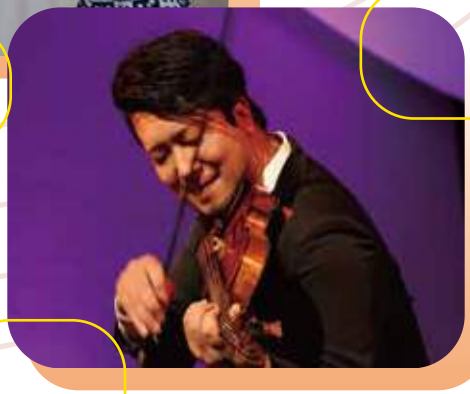
さて、そんな硬派な36回。とはいえ、大宮のアイデンティーである「自由」は、不滅です。今回のアトラクションは「自由に描く音」をテーマに弾けちゃいますよ。

そんなアトラクションは、今年も素敵なステージを予定しています。14回生の原田康子さん(シャンソン歌手)と52回生の山内達哉さん(ヴァイオリニスト)のステージを予定しています。今回は、それぞれの音楽を楽しんでいただきつつ、素敵なコラボを予定しています。

そして、そして、今回は、ちょっとクラシカルに「かっぽれ」をお届けします。かっぽれ、ご存知ない世代は多いですよね。実は、私もよく知りません。14回生の上野裕子さんが、ご主人とお弟子さん方と一緒に、その「かっぽれ」を披露してくださいます。桜川流江戸芸かっぽれ、どうぞ楽しみにしてくださいね。

今年も賑やかに楽しみましょう。

実行チームリーダー／企画部長　佐藤浩子



英国ケンブリッジで日本文化を発信

■ロバーツ平 浩子（36回生）

わたしは早稲田大学第一文学部日本文学専修卒業後、東京のイギリス人学校で日本語を教え同校の英国人教師と結婚しました。姓は家庭裁判所を通して二年がかりで混合姓にしました。現在は、英国ケンブリッジで、嘉悦ケンブリッジ教育文化センターという会議場を運営しています。その間に、ケンブリッジ大学教育学部修士課程にて第二言語教育についても学びました。

嘉悦センターは、東京にある学校法人嘉悦学園が、ケンブリッジ大学のマレイ・エドワーズ・コレッジの敷地内に建設した宿泊施設付き会議場です。学術会議、企業研修、語学研修、国際交流プログラム等々、世界中からのお客様を迎えます。また、展覧会や音楽会の会場としても利用して頂けます。

会場を貸し出すのが会議場としてのビジネスですが、日本の学校法人が建設したので、館内にはお茶室もあり、毎週、裏千家のお茶のお稽古も行われています。お茶と言えば着物は付き物ですが日本にいた頃は、着物は好きでも自分で着ることはできませんでした。しかし、ケンブリッジでは誰も着付けてくれませんから、自分で着るしかありません。お茶のお稽古だけでなく、フォーマルなパーティなどに着物で行くと珍しがられて、「着物の色や柄にはどんな意味があるのか」「日本人は皆着物を持っているのか」「男の人も着物を着るのか」「着物一着にいくつの繭が必要か」等、様々な質問を受け、会話が弾みます。

年に一度、日本大使館の協賛を得て、会議場施設を地元の方々に開放し、日本文化を紹介する日＜ジャパン・デー＞を設けています。茶道や華道の実演、津軽三味線や日本舞踊の公演、書道や折り紙など参加型のプログラムもありますが、その中でも特に人気なのが着付け体験。最初は若い女性の参加を想定して始めましたが、年配の女性、子供、男性の参加希望者もいることがわかり、子供用着物や男性用袴なども準備して、Kimono体験をしてもらっています。日本との間に歴史問題を抱える韓国や中国の若者、先の大戦での戦争捕虜問題にわだかまりのある英国の老年層の中にも、着物を着て喜んでくださる方がたくさんいらっしゃいます。言語や政治や宗教等を超えて、美しいものは美しいのだと思います。これからも、日本文化の魅力を多くの方に伝えることができればと思っています。

ザンビアの辺地医療に懸ける

■山元 香代子（26回生）

私は現在、アフリカ南部に位置する内陸国、ザンビア共和国チサンバ郡の3地域で巡回診療活動を行っています。ザンビアの面積は日本の2倍、人口約1500万人、約70の部族・言語を有する国です。

医療状況は改善してきましたが、まだまだ都市と地方の格差が大きく、地方では道路などの整備が遅れているために、十分な医療の恩恵を受けられない人々が数多くいます。

そのため、辺地の人々、特に5才未満の乳幼児や妊産婦が基本的な医療サービスを定期的に受けられるシステムを確立することが急務なのです。

2011年10月から、4輪駆動でないと通えないルアノ地区での巡回診療を月2回開始しました。ルアノ地区は、人口約2000人、農業、畜産で生活していて、一夫多妻のトンガ族の地域で、電気・ガス・水道はなく、人々は浅い井戸や川の水を飲み水に使っています。

診察は私とクリニカルオフィサー（準医師）で行い、助産師は妊婦健診・家族計画を、ヘルスセンターからのスタッフが薬剤配布を行っています。運転手が受付を担当し、現地ルアノ地区のボランティアやコミュニティヘルスワーカーが、体重・体温・血圧測定を行っています。

2週間に1回しか診療に行けないので、コミュニティヘルスワーカーにマラリア検査キット、抗マラリア薬、解熱剤、経口補水塩、抗生剤の眼軟膏、抗生剤などを渡し、検査と薬剤投与と次の診療までのフォローをお願いしています。

マラリアの患者数が多く抜本的な対策が必要と考え、2016年からマラリア蚊の殺虫剤噴霧を開始し、患者は確実に減っています。

ルアノ以外にサンダラ地区、ニャンカンガ地区などでも診療をしており、2011年10月の活動開始から、2017年末までに合計27000人以上の患者を診療してきましたが、多くの方々の支援をいただき、十分量のマラリアの検査キット・抗マラリア薬などを購入できるようになり、マラリアでなくなる子どもたちがいなくなりました。また、深井戸を19基掘ることができ、多くの人々が安全な水を使えるようになりました。

厳しい道路状況、ザンビア人の医療スタッフの確保のむずかしさ、ディーゼル代・車両の維持費・医薬品の値上がりなど様々な問題がありますが、現地のスタッフの協力のもと、地域住民と十分な話し合いを重ねながら、これからも活動を続けていこうと考えています。私達の活動にご興味のある方は、ホームページ ormz.or.jp をご覧下さい。

*コミュニティヘルスワーカー（CHW）：30日間、保健衛生に関する研修を泊まり込みで行い、修了書を交付された者。基本的にはボランティアで現地の人々の健康水準の向上に取り組んでいる者。なお、ルアノ地区等のCHW養成はORMZ（NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会）が全ての費用（講師費用、食事費用、宿泊費用など）をまかない養成を行っている。

profile

昭和55年、自治医科大学卒業。医学博士
平成27年3月20日、読売新聞社主催　第43回医療功労賞受賞
同年10月23日、宮崎日日新聞賞国際交流賞受賞

関西弦月会だより

■ 猪崎 徹（16回生）

昨年9月30日に3年ぶりの関西弦月会総会を開催。役員の皆様のお骨折りや宮崎の弦月同窓会のご協力があり、内藤会長、大宮の川上校長にもご出席頂き、参加者は49名となった。そんな時に頼りになるのが同期の仲間、16回卒は福岡・横浜・東京からも参加。総会翌日には同期の仲間で奈良の大宇陀へ。江戸時代の雰囲気の残る町並みを歩き、午後は更に時代を遡って万葉集で歌われた「かぎろひの丘」へ。

東の　野に炎（かぎろひ）の
立つ見えて　かへり見すれば
月傾きぬ

（柿本人麻呂）

歌に詠まれた阿騎野を散歩。「かぎろひ」はかげろう（陽炎）ではなく、日の出前に東の空が赤くなる現象で、その後にまた暗くなり、それから日の出となる。現場で聞く歴史は面白い。でもそれより楽しいのは気の置けない仲間との邂逅。

大宇陀の農園レストランにて

16回卒は宮崎在住者を中心とする「一六会」と、関東・関西在住者を中心とする「ジャンボかぼちゃの会」があり、機会を見つけて親交を深めている。

還暦同窓会報告

■ 森中 香織（28回生）

我々、28回生は昭和51年3月に大宮高校を卒業した。その日、還暦になったら同窓会をしようなどとは、誰も思っていなかったことであろうと思う。

卒業後、それぞれがそれぞれの道を進み、社会に貢献して来た時間は有に40年をこえる。還暦という節目が見え始めた頃、還暦同窓会を実行しよう、という機運が起こったことはごく自然な流れであろう。現、大宮高校の同窓会会長の谷口善雅君のもと、地元の有志による同窓会のための準備会議は10回以上行われたと聞く。誠にありがたく、あらためてここで御礼を申し上げたい。

平成29年6月3日宮崎観光ホテルにて、還暦同窓会は開催された。ロビーにはクラスごとに受付のテーブルが準備され、幹事の方々による受付。しかしその時間ももどかしく、久々の再会にあちこちに歓声が響き渡る。同窓会のなんとも素敵な光景である。

声をふりしぼる津江クン

恩師の幾人かにはお元気なお姿でご出席いただいた。あらためてお世話になったときに先生方はおいくつであられたのか、指折り数えてみた。

アトラクションの現役の大宮高校生の応援団の演舞には時の流れをそれぞれ感じたことと思う。

すでに鬼籍にはいられた恩師、幾人かの同級生には黙祷し哀悼の意を捧げた。

この会合に、お手紙を寄せてくださった国語の小松先生は、翌月に鬼籍に入られた。最後にE組の津江クンのエールで宴は終了した。しかし、話し足りない、話し足りない、高校生の気持ちに戻ったままに、大方のクラスはニシタチへ二次会に。唯一、A組は、大淀川河畔のカマボコテントの下での二次会であったという。

同期会だより

■村中田 博（42回生）

私は宮崎の小学校で勤務し、体育のスーパーティーチャーをしておりました。全国セミナーのパネリストとしてICTを活用した実践発表がきっかけで文部科学省の情報教育課で働いております。大学時代より22年ぶりの東京一人暮らしで全く違った生活でありますが、つながった仲間がいて心強いです。日本の子どもたちの明るい未来のために、精一杯がんばっております。

国富町の本庄出身で、高校には自転車で通っておりました。硬式テニス部では神戸でのインターハイに出場することができました。昨年29年ぶりに後輩が出場し、初勝利したとの報告があり、とても嬉しかったです。また小学校学習指導要領解説の体育編に、私が実践・研究してきたテニスのことが昨年例示され、日本テニス協会より全国の小学校に配布されました。今後もテニスの魅力に子どもたちが触れることのできるよう努めてまいります。

こちらで一金会に参加したことがきっかけで学年幹事を引き受け、定期的に集まっていた同期に連絡をとり、総会では10名ほど集まることができました。初めて参加するという同期が多かったですが「自分たちが担当する際はこんな会にしたい」という話も出ました。とても頼もしい仲間です。その後、高校時代に国語を担当していただいた黒木淳一郎先生（現宮崎西高校校長）が上京された際は、卒業式で総代を務めた吉川淳一郎君が連絡をとってくれて集まりました。

若い世代がもっと集まれるような会になるように、知恵を出したいと考えております。引き続き、42回生をよろしくお願いいたします。

■第35回東京弦月会 同窓会・総会報告

平成29年度の第35回東京弦月会同窓会・総会は、9月2日（土曜）帝国ホテルで開催された。今年も幹事の方々の献身により無事に開催のはこびとなり、天候のいたずらにもあうことのない良き日であった。

毎年見られる、ロビーでの再会の喜び。この嬉しさは、若い数字の回生の方々にとってはことに大きな意味を持っているのであろう。去年は来られたのに、今年は、などと漏れ聞こえる消息の会話に、この会の持つ大切な意義を改めて感じさせられる。

回生ごとに設えられたテーブルにそれぞれ着席して、まずは、総会。今後の会のあり方に対する質疑等の報告、続いての承認。毎年のことではあるが、幹事の方々のご苦労に深く感謝したいと思う。

再会を喜んだ後は、食事の楽しみ、アトラクションの楽しみ、それぞれが滞りなく進行していく。今回は、特に、盛りだくさんのアトラクションであった。バイオリン、舞踊、声楽。いずれも弦月会、郷土につながる人脈での友情出演で、この豊かさは全く誇らしい限りである。

協賛のご厚意による抽選会もまた毎年の大きな楽しみの一つ。当たった友人を羨ましく思いつつ、あちらこちらで鳴りやまない拍手。宝石あり、航空券あり、宮崎牛あり、焼酎あり。この豊かさもまた大いに誇るべきものであろう。

それぞれに満ち足りた思いで、校歌を歌い、会は終了した。また二つ、若い世代に幹事はバトンタッチされた。次回はどのような内容になるのであろうか。回生を超えて次の一年まで、無事でいることを約束しあい、会場をあとにした。

弦月会の歴史、伝統は今年も新しいページを加えた。5月26日には、新しい試みとして、若い世代と初参加の会員をターゲットにした新形式の同窓会が開催された。今年の総会では、その報告もされることであろう。弦月湖に寄せて集う同窓会は永遠にアクティブである。

森中香織（広報部）

母校創立百三十年を記念して

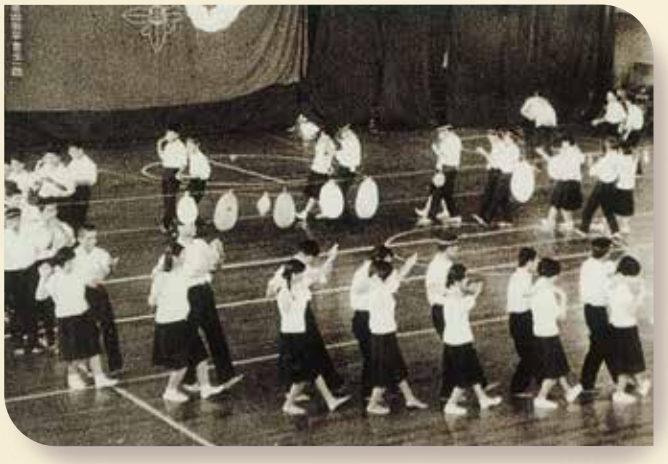
～思い出のアルバム～

大宮高校は、明治21年（1888）に宮崎中学校として創立され、昭和23年に学制改革により宮崎大宮高校となり、現在に至ります。創立130年を迎えた今年、大宮スピリット溢れる写真をセレクトしてお届けします。

昭和11年　宮女弓道部

昭和10年代　弦月湖とハゼ並木

昭和32年８月　第39回甲子園大会（対三国高校戦）



昭和34年　学校祭後のフォークダンス

※宮崎大宮高校では130周年記念書籍を発行する予定です。出版に関するお問い合わせは鉱脈社（電話　0985-25-1758）までお願いします。

昭和55年　登校風景

昭和47年　プールサイドでのコンサート（文化祭）

出典：創立110周年記念写真集『百十秋』より抜粋（宮崎県立宮崎大宮高等学校発行）

ふるさとの土地は大丈夫ですか？

相続や有効活用など、宮崎の不動産に関するお困り事は、地元宮崎で1973年創業の(株)長友総研にご相談ください。

株式会社 長友総研

https://www.nagasou.co.jp

株式会社 長友総研
取締役会長　不動産鑑定士　長友孝允（第10回卒）
代表取締役社長　不動産鑑定士　長友岳夫（第45回卒）

〒880-0803　宮崎県宮崎市旭2丁目1番5号
TEL 0985-25-1464　FAX 0985-20-1345　Mail t-nagatomo@nagasou.co.jp（長友岳夫）

■ NOW on Sale ■

デ ザ イ ン × 住 ま い

Metropolis Remaking by Properst Strategy

株式会社プロパスト

30th years

プロパストはおかげさまで
創業30周年を迎えました。

デザインにこだわる。真の心地良さの創造にこだわる。そして次のステージへ。

PROPERST

代表取締役社長 **津江 真行**
（第28回卒）

〒106-0045
東京都港区麻布十番1-10-10
ジュールA 7階
TEL. 03-6685-3100
FAX. 03-6685-3110
http://www.properst.co.jp
［東証JASDAQ上場№3236］

同好会案内

楽しい集いです
ご連絡お待ちしています

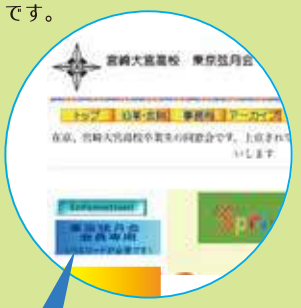
ゴルフ同好会
連絡先　井上 隆夫
TEL　080-3170-5716
連絡先　菊池 良介
TEL　090-4978-7271

ワイン同好会
連絡先　郷原 康親
TEL　048-653-6146

ふくの会
連絡先　横山 直人
TEL　045-773-5235

IT 部よりお願い

『東京弦月会HP』に会員専用バナーが出来ました！ パスワードを入力して専用ページに移動します。
パスワードは tkgenkaiin36 です。



東京弦月会
会員専用
（パスワードが必要です）

平成28年度　東京弦月会収支計算

自　平成28年 8月10日
至　平成29年 8月16日

収入の部

科目	予算	実績	備考
前期繰越金	1,382,567	1,382,567	
総会会費	3,982,000	3,627,000	11,000円×310名（振込 2名含む） 3,000円×3名 来賓17名、一般3名（33,000円）
維持費	900,000	769,000	1,000円×296名、473,000円(394件)振込 欠席振込・多年分振込含む
広告費	0	545,000	39件
寄付金	0	852,000	148件
利子	0	18	
総合計	6,264,567	7,175,585	

支出の部

科目	予算	実績	備考
総会費	3,596,630	3,358,858	会場費及び諸経費
会議費	45,000	79,239	幹事会会場費
活動費	172,500	185,669	各部の会場費
会合費	139,000	98,000	各校同窓会参加費
通信費	350,670	499,648	郵便・切手　メール便　同窓会返事用葉書
印刷費	269,200	291,047	総会プログラム、総会案内、東京弦月会会報、振込用紙印刷費
広告費	59,000	84,000	各種広告費
事務費	60,000	36,771	コピー代、総会用封筒、インク代、用紙代
HP 運営費	30,000	28,903	インターネット関係
慶弔費	0	0	
振込料	60,000	47,510	
予備費	100,000	0	
合計	4,882,000	4,709,645	
翌期繰越	1,382,567	2,465,940	
総合計	6,264,567	7,175,585	

残高	2,465,940
現金残高	129,375
郵便貯金	2,336,565

会計幹事　牧野　徳子
山田　多恵子
宮本　裕子
監査役　村川　和弘
坂上　哲也

各項目につき帳簿、証憑書類を精査いたしましたところ、
その処理は妥当かつ正確であることを確認いたしました。
よって上記収支決算は公正妥当であることを認証いたします。
平成29年8月17日

編集後記

第25号会報をお届けします。今年は母校創立130年の節目にあたり、何か記憶に残る1ページを作りたいと思いました。3月に大宮高校を訪問し、弦月同窓会事務局の協力を得て、写真集『百十秋』をいただき、それを素材に紙面を作ることにしました。

この場を借りて、著作権や肖像権の問題をクリアしてくださった川上浩前校長に心より御礼申し上げます。写真のセレクトにあたっては、十数人のそれぞれ年代の違う卒業生にヒヤリングしました。在りし日の「弦月湖」の写真も載っています。モノクロの陰影から何かしら感じていただければ嬉しいです。老いも若きも胸襟を開いて大らかに語らう、弦月同窓会に幸あれ！

（広報部長 福永育子）